

聖書：マタイ 4：5～7

説教題：主を試みてはならない

日時：2016年7月17日（朝拝）

荒野における悪魔の誘惑の二つ目です。悪魔はイエス様を聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて言いました。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさえ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる』と書いてありますから。」と。1回目の誘惑においてイエス様は御言葉を正しく引用して誘惑を退けました。すると2回目は悪魔も聖書の言葉を引っ張って来ました。引用したのは詩篇 91 篇です。この御言葉に則って悪魔は言いました。「あなたは随分と神に信頼して歩んでいるようだが、それならここから飛び降りてみたらどうか。聖書には、神は天使たちを遣わしてあなたを危険から守ると約束されている。だからあなたがここから身を下に投げても、大丈夫のはずでしょう。それによってあなたが本当に神に信頼していることを表したらどうか。神にそのことを証明させたらどうか」と。果たしてイエス様はどう答えられたのでしょうか。

イエス様はこの2回目の時も、御言葉を正しく引用することによって戦っています。そして今日言葉の中で大事なものは「とも」という言葉です。イエス様は答えられました。「あなたの神である主を試みてはならない」とも書いてあると。これは聖書を読む上で大切な原則を私たちに示してくれるものです。それは聖書の言葉は他の聖書の言葉とのつながりの中で理解されなければならないということです。一つの聖書の言葉は他のところに書いてある聖書の言葉と調和するように理解されなければならない。悪魔は今一つの御言葉を持って来て、それでイエス様を誘惑しようとしています。このことは聖書は一カ所だけ切り取って悪用することが可能であることを示しています。悪魔は詩篇 91 篇を引用しましたが、これだけを見るなら、サタンが言うように、この約束が本当かどうか、まずは試してみよう！という考えが出てきてもおかしくありません。しかし聖書は一方で「あなたの神である主を試みてはならない」とも言っています。実に異端は、聖書の特定の箇所だけを強調することから発生します。そしてそれを特別に持ち上げて、他の都合が悪い箇所を軽んじることによって、聖書自身が持っているバランスから外れて行ってしまいます。ですから私たちは正しい判断ができるために聖書全体に親しむようにしなければなりません。好きな御言葉だけ心に留めて、そればかりを自分の原則のようにして繰り返していると、独り善がりの解釈に陥りやすいのです。一つの聖

句は他の聖句によって解釈されなければなりません。聖書の最初の創世記から最後の黙示録までえり好みせず親しむことを通して、バランスを欠いたことを言う人には「〜とも書いてある」と、正しい道を示すことができるようになることを目指さなくてはなりません。

では今日の悪魔の誘惑の狙いはどこにあったのでしょうか。本質的な問題は何だったのでしょうか。それはイエス様の言葉を見て行く時に分かります。イエス様はここで申命記 6 章 16 節を引用して答えられました。その箇所ではモーセはこう言っていました。「あなたがたがマサで試みたように、あなたがたの神、主を試みてはならない。」そしてイスラエルの民がマサで主を試みた時の記事が出エジプト記 17 章 1〜7 節に記されています。ご存知の通り、イスラエルがエジプトを脱出して紅海を渡った時のことが出エジプト記 14 章に記されています。そしてこの後 20 章でシナイ山において十戒を神から授かります。この 17 章はその間の出来事になります。1 節を見ると、レフィディムに宿営した時、そこに水がなかったとあります。そこで 2 節で民はモーセと争い、「私たちに飲む水を下さい。」と言い、モーセは彼らに「あなたがたはなぜ私と争うのですか。主を試みるのですか。」と言いました。私たちはこれを読んで、なぜこれが主を試みることなのかと思うかもしれません。しかし良く読むと、これはただ水を求めたというのではないことが分かります。2 節にまず「民はモーセと争い」とあり、争った時の言葉が 3 節に書いてあります。彼らはモーセにつぶやいてこう言いました。「いったい、なぜ私たちをエジプトから連れ上ったのですか。私や、子どもたちや、家畜を、渇きで死なせるためですか。」そしてこの彼らの心が 7 節に記されています。すなわち彼らは「主は私たちの中におられるのか、おられないのか。」と問うたのです。こんなに苦しい所へ我々を連れ出して置いて！本当に神が私たちの間におられるなら、今すぐ水を我々に与えて、そのことを証明して見せよ！と要求した。

ある人は生命を維持するための基本である水がないのだから、彼らがこのように問うのは当然ではないかと思うかもしれません。神がともにいるなら、水くらいは用意して、そのことを証明してほしいと。しかし問題になっているのはまさにその考え方です。イスラエル人がこれらのある種の苦境に置かれたのは神の守りが弱かったからではありません。前回見た申命記 8 章 2 節にこうありました。「あなたの神、主が、この 40 年の間、荒野であなたを歩ませられた全行程を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあ

るものを知るためであった。」 この御言葉によれば、彼らが苦境に置かれたのは神のミスや配慮不足によるのではなく、むしろ神が意図したものでした。それは彼らを試すためでした。その心にあるものを知るためでした。神は彼らを万全な守りの内に置きながら、彼らが信仰によって歩むかどうかを調べ、その信仰を磨きあげようとしておられたのです。そして合わせて考慮すべきは、彼らは十分な準備を経て、このような状況に置かれたということです。彼らは神の御手によってエジプトに 10 の災害が下ったのを見ました。葦の海を背にして追い詰められた時も、後ろにあった紅海が真っ二つに分かれて、そこを歩いて救われるという驚くべき主の守りを経験しました。主はご自身とともにいることを示すために昼は雲の柱、夜は火の柱となって彼らを導いて下さっていました。前の 16 章では食べ物に飢えた時、ウズラとマナを天から降らせて荒野で彼らを養って下さいました。このような神の守りを次々に経験してきた彼らなら、飲み水に不足を覚えたこの時、どう考えるべきだったのでしょうか。主は今回も私たちを守って下さる！と信頼して歩いてこそ当然だったのではないのでしょうか。ところが彼らは目の前に問題が迫って来た時、こんなことでは主は本当に我々の間におられるのかと言って騒ぎ始めたのです。そしてもし共にいるなら、水を出すことによって私たちにそれを示すようにと要求した。これは信仰による歩みとはとても言えません。彼らは神を信じてより頼むよりも、神の上に立って神をテストしています。この苦境においてテストされているのは自分たちの側なのに、彼らは自分たちの信仰は問わずに、逆に神をテストしている。そして神を自分たちが思う通りに操作しようとしている。これでは立場が全く逆転していると言わざるを得ません。

イエス様はまさにこれと同じ誘惑をここに見たのです。すなわち神を上から操ろうとする罪です。確かに神はご自身の愛する者を御使いを遣わして守ると約束しています。しかしこれは神に信頼し、従う者たちをそのように守ると言っているだけで、必要もないのに遊び半分飛び降りても大丈夫！と述べているものではありません。そのようにして神がどう動くかを試そうとすることは、神の御心とはかけ離れたものであり、自分の思いを神の上に置くものではないのでしょうか。それは神に従うより、神を従わせようとする事に焦点が合っていることではないのでしょうか。これは聖書が言う信仰の世界とは全く別物ではないのでしょうか。神との関係において大事なことは、私たちが神の言葉に聞き、神に信頼し、神に従うというものです。私たちが神に何かを命じたり、私たちの思う通りに神を動かすことが正しい神との関係なのではありません。前もって試すというのは、信じていない心から発生するものです。信じているなら、試す必要は全く

ありません。イエス様はそのようにして実験によってではなく、神に服従する生活によってこの神の約束を自分のものとして体験するという道を選び取って行かれたのです。

このサタンの第2の誘惑は私たちの生活にも色々な形で忍び寄って来るものでしょう。たとえばその一つは、イスラエルのように、ある種の困難な状況の中で起きてきます。ともすると私たちはそこで、主はここにおられるのか、おられないのかと問い、「もし主よ、あなたがともにいてくださるなら、これこれの私が言うことをかなえてくださることによって、そのことを示してください」と祈る。ある時、学校から帰る時、雨がザーザー降ってものすごく嫌気がさした時がありました。その時、神に「少しでも小降りになるようにしてください」と祈るのはして良いことです。しかし私はその時、こう祈りました。「主よ、もしあなたが私とともにおられ、私の神であるなら、この雨を弱くすることによって、そのことを示してください。そのことによってあなたが私に好意を持っていてくれることを示してください。」そして息をひそめて様子を見守りました。結果は何も変わりませんでした。私はそれで勝手に失望しました。しかしこれは神を自分の思い通りに動かそうとすることではないでしょうか。それにもし神がこのような祈りを聞いてくださるとしたら、どうなるでしょう。私は事あるごとに「神よ、あなたが私とともにおられるのなら」と言って、次々に色々な条件を出すようになるでしょう。そしてそれらを神に聞かせようとすることによって、神を益々自分の思う通りに操作しようとするようになるでしょう。これは確かに罪です。私たちは困難の中にある時、このことを思うべきです。それは試されているのは私の信仰である。その自分の信仰を問わないで、反対に神をテストするようなことをしてはならない。どんな状況であっても、神はそこにおられます。神はイスラエルにそれまで多くのしるしをくださったことを先に触れましたが、私たちに対してすでにご自身の一人子を十字架にまで送ってくださったことによって私たちへの愛を明らかに示しておられます。そして私たちはそれぞれ信仰生活の中で、神がともにいてくださることを何度も味わって来たことでしょう。ですから私たちがその状況ですべきことは、色々な条件を出して改めて神を試し、それを神の問題であるかのようにすることではないのです。そうではなく、私が神を仰ぎ、神を信じ、神に従うこと。信仰に生きること。その者に祝福が約束されているのです。

あるいは苦しい状況でなくても私たちの生活に起こりがちな主を試す別のあり方は、自分のすべきことを十分にしないまま、神の約束を盾に取って冒険的なことを試みることです。悪魔が引用した詩篇 91 篇も、神に信頼して従う者に対する神の約束です。そ

の自分がなすべきことはいい加減な状態にしておきながら、ただ神は守ってくださると言って無謀なことをする。たとえば試験の前に勉強することをしないで、試験当日、神は私を導いてくださるなどと考える。あるいは日々のトレーニングを怠っているのに、スポーツ大会当日に、神に不可能はない、などともっともらしいことを言う。あるいは話すべきことは聖霊がその時に教えてくれると聖書に約束されているからと言って、準備をあまりしないで説教するとか、CSのお話に当たる。かつて神学校の説教演習の授業で、あるクラスメイトが、まさに語るべき言葉はその時に与えられるという御言葉をもとにして、準備をせずに演習に臨んだ時がありました。その時の彼の思うように話せないための当惑した顔つき！顔を真っ赤にしなが、しどろもどろで、とても見ていられないような哀れな姿！恐ろしい時間！そして指導教官の先生が最後に「そんなことを実際の教会でやったら一発で首になると思え！」と言われた厳しい言葉が忘れられません。これも主を試すことでしょう。あるいは神は必要を満たしてくださると言って、今できる節約の努力を怠って浪費すること。あるいは「私たちは真実でなくても神は真実である」と言って、少く罪の生活へ進んでも神は私を捨てないだろう、また恵みの状態へ戻してくれるだろうと考えることも同じです。私たちに求められていることは神の約束ばかりを心に留めて神を試すことではなく、御言葉において示されている私たちのなすべきことに取り組むことです。その者に約束は与えられているのです。

ですから私たちはただ主を試さないようにと気をつけるだけでなく、御言葉に従う者に主が与えてくださっている素晴らしい約束をしっかり見つめることによって、正しい歩みへ励まされたいと思います。サタンはここで、主が御使いを送って助けてくださるかどうかもまずは試してみよ！とけしかけましたが、主に信頼して従う者にはその必要がないことが11節に示されています。そこに「見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。」とあります。すなわち御使いたちによる守りはきちんとイエス様の上にあった。前もって試さなくても、神に信頼して従うなら、神の約束は真実に成就されることをこれは印象的に語っているのではないのでしょうか。

私たちは神の約束を受け止めて、今週も神に信頼し、従う歩みへ進みたいと思います。私たちには見えなくても、神は多くの御使いを遣わして、神の子どもである私たち一人一人の生活を守っていて下さいます。詩篇 34 篇 7 節：「主の御使いは主を恐れる者の回りに陣を張り、彼らを助け出される。」 私たちのすることは、不信仰によって神を試し、神に何かを命じるのではなく、神の御言葉に聞いて従う歩みをすることです。ど

んな状況にあっても、そこにおられる神を見上げ、神に信頼して従う生活をする
ことす。その者に、今日の詩篇のみことば、「神は御使いたちに命じてあなたを支え、あ
なたの足が石に打ち当たることのないようにされる」という素晴らしい約束は真実に、そ
して豊かに成就するのです。